

出雲に残土処理新施設

地元建設業者の負担軽減 業操からきょう

公共工事などで発生した残土の処理施設が従来なかった出雲市内で2日、新たな処理施設が操業を始める。同市平田町の産業廃棄物処分業者「ReiFLEX」が遊休地や山林など計1・7畝を取得して整備した。市内では、市が財政支援した民間処理施設が公共事業の減少などで2015年3月に廃止されており、地元建設業者からは他地域の処理場への搬送や、自社で処分場を確保する負担が軽減されることを期待している。



ReiFLEXが開業させる残土などの処理施設。出雲市小境町

「ソイルパークひらた」と名付けた施設は、出雲市小境町の市道沿いの遊休農地などを造成して開設。受け入れ処理量は9万立方メートルで、残土1立方メートルあたり1500円で受け入れる。運営するReiFLEXは、旧平田市の建設業者が共同出資して設立した。

出雲市内では05年度、市が確保した1・4畝で、地元建設業者48社が出資して設立した会社が残土処理施設を操業開始。市は借地料免除などの支援を行ったが、受け入れ残土が計画を大幅に下回るなどして赤字が続き、15年3月に廃止された。

この結果、市内では残土の定員は、短大部が保育、松江キャンパスの新課程

短大部に四年部編入制度 鳥根県立大 松江キャンパス 定員の1割程度

短大部に四年部編入制度

鳥根県立大 松江キャンパス 定員の1割程度

鳥根県は1日、2018年度に一部四年制化する県立大短期大学部(松江市浜乃木7丁目、松江キャンパス)に関し、短大部の保育、総合文化学科を卒業後に、同大学の四年制学部へ編入できる制度を設ける方針を示した。新課程開始から2年後の20年度で定員は保育系4人程度、文化系7人程度を予定する。

県議会で、松尾紳次総務部長が、須山隆議員(民主県民クラブ)の質問に答弁した。

松江キャンパスの新課程の定員は、短大部が保育、理したり、自社で処分場所を確保したりする必要があったという。

山崎社長は地元業者の負担軽減に加え、広島市内で14年に発生した土砂災害で土砂の処理先を確保できず、復旧が遅れたのを踏まえ、「万が一の場合の備え」としても、処理施設は地域に不可欠」とした。発生し

た土に銕物の廃砂などを混ぜ、道路工事の盛り土材などとしてリサイクル販売することも計画している。

県外入学生の住居 19高校が確保へ 鳥根県、上限撤廃で 鳥根県の高校魅力化事業などをきっかけに増えている県外から入学生の住居あっせんについて、同県の鴨木朗教育長は1日の県議会答弁で、来年度にも県外生枠を撤廃した全19校が、寄

生徒の71・2%に当たる198人が四年制を希望するか受験候補にしていると回答。80人が短大としている。また、松尾部長は、現行の35人体制から29人追加が必要となる教員確保にめどが立っていることを明らかにした。(尾添大介)

山川氏が出馬表明

米子市長選

任期満了に伴う来春の米子市長選に、市議で新人の山川智帆氏(38)が米子市皆生温泉1丁目1が1日、無所属での立候補を表明した。JR米子駅南北一体化事業や市営泰山球場の国史跡追加指定の是非を問う住民投票を行う考えを強調した。

鳥取大医学部を中心とする医療施設や皆生温泉など地域資源を生かしたまちづくりを目指すという。

告示前に議員辞職する考えはない。現時点で市議会に欠員はなく、市長選と同

山陰総合 購読の申し込みは TEL0120(49)2550 (午前9時30分~午後5時30分)